令和３年度名張市応急診療所運営協議会定例会　議事録（概要）

日時：令和３年７月２日（金）13：30～14：15

場所：名張市保健センター（2 階　大会議室）

１.【市長挨拶】

お忙しい中、万障お繰り合わせの上ご出席いただいた皆様にお礼申し上げる。委員の皆様には日頃より応急診療所のスムーズな運営はもとより地域医療の充実、発展のためにもご尽瘁をいただいており重ねてお礼申し上げる。とりわけこの 100 年に１度の国難と言われている新型コロナウイルス感染症の対応・対策、またワクチン接種を最前線でご奮闘いただいている方々でして、感謝が絶えない。行政としても、感染経路の特定あるいはＰＣＲ検査の推進については保健所だけでは手が回らない状況のため、市の保健師を中心として取り組んでいる。特に学校の場合は何百人と検体を採取しなければならない。保健師も月 100 時間を超えてきて大変だが、市民の皆様の安全安心の生活を守るために何とか踏ん張っていかなければならないため引き続きのご指導をお願いしたい。ワクチン接種については、かねてから医師会を中心として歯科医師会あるいは薬剤師会のご協力のうえ推進をしていただいてきた。県内の自治体も 7 月に入ったら加速化して、インド株による第 5 波をできるだけ抑えこみ、秋には安全安心の三重県へ全国から 2 万人のアスリートにお越しいただこうと思っていたが、ワクチンが思うように集まるかどうかという大変な状況になってきている。全国市長会として、全国知事会として、地方 6 団体としても政府に強く要請はさせていただく。加えて全国市長会の会長が加藤官房長官に会われ、ワクチンは優先して自治体へ渡していかなければならないと申し入れをしていただいたところである。私も 6 日に全国の保険者を代表して厚労大臣はじめ政府の要人に合わせていただく予定であるため強く要請をしていきたいと思う。基本はそれぞれの診療所での個別接種と集団接種になり、これが途切れると大変になると思っている。また、中学生の接種について名賀医師会においては稲持先生を中心に方向性を検討いただいている。25 日に県のコロナ対策協議会がもたれ、一つはワクチン接種のこと、もう一つは会長から、中学生の接種をこの協議会の中で方向性を出していくべきではないか、マニュアル的なものはできないかという提案があった。それをどうしていくかについて、医師会の野村部会長と三重病院の菅原副院長で話をしてもらう。それぞれの自治体に任せていくのか、県協議会としてある一定のマニュアルみたいなものができるのか分からないが、県の協議会の中でこれから作っていくのは非常に大変ではないかと思う。いずれにしても名張市の自治体としては、名賀医師会の方向性に沿った中でやらせていただけたらと思っている。実は中学生にワクチン接種のアンケート調査をした。結果、38％の中学生が受けたいとの回答があり、これは高校入試の方々だと思う。できればそのような方々に接種させてあげたら安心かと思うが、今後医師会と相談してどのような方向でいくのか協議をしていきたい。引き続きのご指導ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げる。

（委員）：三重県の中学生の接種に関しては、三重県小児科医会で急速に方向性を出していく。

２.【会長挨拶】

お忙しいところありがとうございます。令和 2 年度の応急診療所利用状況と決算報告についてご審議いただくのですが、応急診療所の将来のことも議論いただけたらと思います。宜しくお願いいたします。

３．【議事】　事務局より定例会資料に基づき報告（吉田）

①応急診療所利用状況報告（令和２年度）　※資料１（P1～P14）

②決算報告（令和２年度）　※資料２（P15）

＜質疑応答＞

（委員）資料１でＰＣＲ検査関連に関しては住所別、科目別、疾病大分類、保険別のどこに分類されているのか。今年は特殊なため、このＰＣＲ検査センターの部分は別にまとめるべきだと思う。診療収入に関してもＰＣＲ検査センターの部分と応急診療所は別として考えるべきだと思うのでもう一度やりなおしていただきたい。

報償費の中の「会計年度任用職員報酬」について教えていただきたい。ＰＣＲ検査センターの施設工事費や施設運営費負担金については、応急診療所の事業としての会計にするのは妥当なのかを教えていただきたい。曜日ごとの人数も月曜日と木曜日が例外になるため人数的にもおかしくなるし、応急診療所の本体の部分とＰＣＲ検査センターは全て別として計上したほうが良いと思う。今年度も継続はされているがいつまで継続するか分からないし、その後の応急診療所の運営について協議するうえで、年度途中の事業ということもあり今後のことを考えた場合は特別会計としたほうが望ましいと思うのでよろしくお願いしたい。

（会長）応急診療所本体の診察と、ＰＣＲ検査センターの検査とは、分けてもらったほうが良い。

（事務局）会計年度任用職員について、令和元年度までは臨時看護師と医療事務は臨時職員という扱いであったが、令和 2 年度から会計年度任用職員という位置づけになった。令和元年度までは賃金で支払っていたが、令和 2 年度から会計年度任用職員の費目としては報酬と旅費に分かれており、それらを足すと前年度並みの金額になります。

応急診療所費とＰＣＲセンター事業費の件だが、当初歳出の部分は分類したものを作成したが、結果的にこのような形になってしまい申し訳ありません。診療所費の歳出合計は 48,076,047 円でＰＣＲ検査センター事業費の歳出合計は 17,333,790 円となります。

（委員）以前と比較しているグラフが多いが、それがかなり大きな変化が出てくるため、今年度は一緒にした部分とＰＣＲ検査センターの部分を別紙としてつけるべきだと思う。そうしないと変化も分からないので、一緒にした部分と内ＰＣＲ検査センター分として出したほうが良いと思う。

（会長）ＰＣＲ検査センター分を別として付け、本体の決算と比較できるようにするべきだと思う。

応急診療所でトラブルや苦情はなかったか。

（事務局）令和２年度はありませんでした。

（委員）名張市立病院で小児患者を受け入れるようになったのは何月からですか

（事務局）11 月 1 日からです。

（委員）それについても科目別に 11 月以降とそれ以前の患者数を書いていただいたほうが良いと思う。

（事務局）市立病院の小児救急医療センターの人数について説明します。昨年の 4 月から 9 月までは時間外救急の月平均が 60 人だったが 10 月～3 月までは 80 人に増えている。これが応急診療所からご案内している部分がどれだけ影響しているかは分からないが、数字としては増えている。逆に応急診療所の小児患者の割合は今までは 3 割くらいだったが、コロナの影響もあるが昨年の 4 月で 24%、8 月以降は 10%を切っており令和 2 年度の合計は年間で 8.7%まで落ちている。

（委員）非常に大事なポイントだと思うので入れるべきだと思う。市立病院がどれだけ受け入れていただいているか示すことも大事だし、応急診療所がどの程度の診療内容を負担しているのかを明確に示すことは今後の運営に対して非常に重要なことなので、それも改めてここに出すべきだったと思う。
（会長）小児の 118 人という人数も 11 月 1 日以降はどれくらい減ったかも記してもらうとその前との比較ができるのでまたお願いしたい。

③来年度（令和 4 年度）のお盆診療の取り扱いについて
来年もお盆診療日を設定しない　⇒ 承認

◎　令和 4 年度　お盆診療日 … 設定しない。